

議会  
だより

# 皆様から頂いたご要望を議会で質問。前進、実現へ。

6月議会は6月10日から17日にかけて開催されました。今回は希望通り1時間の枠でトップバッターで一般質問をさせていただきました。全体的にかなり前向きの答えが返ってきてぜひ内容を少し詳しくお伝えしたいと思います。



(一般質疑)

## ・投票率の向上について

(北九州市立大学の北方キャンパスに期日前投票所を設置)

Q.つい先日行なわれた参議院議員通常選挙から、いよいよ18歳選挙権がスタートしました。その直前の議会でしたので、ぜひ若者の政治参加を促すため、市内の大学へ期日前投票所を設置してはどうかを尋ねました。

A.行政委員会事務局長は「設置に向けて他都市の事例も踏まえ検討を行い、対象者を大学所在の区に限る、また、二重投票防止のための区選管との連絡に電話等を活用することなどにより実施することが可能と判断、今回、北九州市立大学の協力を得て、同大学北方キャンパスに、若者への啓発を目的として、臨時の期日前投票所を設置する」との答えがあり、実際に期日前の2日間だけですが設置がなされました。

更に再質問で投票率を上げるために、人の集まるショッピングセンターなどでも期日前投票所を設置すべきではないかも尋ね、課題もあるができるところから少しずつやっていきたいとの答えでした。

(ちなみに北九州市立大学期日前投票所は2日間で投票者数は123名だったそうです。少ない?皆様はこの数字をどう思われますか?)

## ・九州実業団毎日駅伝について(11月3日開催予定)

Q.全日本実業団対抗駅伝(ニューイヤー駅伝)の予選を兼ねた九州実業団毎日駅伝が、今年度から若松区を中心とするコースで行われることになりました。北九州マラソンのコースが若松区から外れ悔しい思いをし、私も夫とともに関わりをもっていただけに今回の実現を嬉しく思います。ただ私は当初国道199号線を通るコースを望んでいたので少し残念ですが、交通規制の問題や本番に向け風の強いコースを希望されたとのこと。せっかく若松区、北九州で行われるこの駅伝大会を、これまで以上に盛り上げ、いかにまちの賑わいに結びつけるかが重要で、本市を訪れる選手と応援の方々をどのようにおもてなししようと考えているのか、この大会を成功させるために、市としてどのような取組みをするのか尋ねました。

A.市長は「九州実業団毎日駅伝競走大会は、九州トップレベルの実業団のチームが一堂に会する歴史と伝統を誇る大会。主催者から大会の本市開催の打診を受け、大会の誘致を進め開催が決定したことを大変嬉しく思う。この大会は約2千名を超える関係者が来北、テレビ放映も行われ、本市の魅力を発信する絶好のチャンスとなる。また、大会前日には、**若松市民会館で開会式**も予定され、大会コースとなる若松区はもとより、市全体の賑わい創出やシビックプライドの醸成といった面でも大きな期待が持てる。選手や来訪者の心に残り、北九州市のファンとなっていただけのよう、例えば、**若松区の伝統芸能や特産品を活用した、おもてなし等**について、主催者や関係団体、区役所等とも連携を図り、取り組んでいきたい。また、沿道での応援は、強風の吹く、厳しいコースを走る選手にとって、大きな力となる。多くの市民に応援していただきたい。今後、大会の成功に向け、市としても大会運営や盛り上げへの協力を図り、市民が愛着を抱く素晴らしい大会となるよう取り組む」との答えでした。



毎日新聞 平成28年4月28日(木)より

## ・奨学金の充実と返還支援について

Q.本市の奨学金制度は無利子ではありますが、高校、大学と続けて奨学金を利用した場合の返済が卒業後半年後から同時に始まるなどで返済不能となったり、社会人になって貧困に陥るか、その前に大学への進学をあきらめてしまうのではないか、また対象が高校、短大、大学、大学院への進学と限定されていることから、専門学校についても貸付ができないか、加えて、多くの自治体が卒業後その自治体に住むことや就職すること等を条件に、奨学金の返還を支援するなど奨学金に関する支援制度を充実させており経済的理由で進学を迷っている若者が未来に夢を持てるよう奨学金の充実についても尋ねました。

A.教育長は「奨学金の返還については、高校と大学の奨学金を続けて受給した場合、それぞれの奨学金の返還が同時に始まることになり、その負担感が大きいことは理解できる。本市の奨学金と他の奨学金とを併せて借りた場合の返還の調整は困難だが、本市の奨学金を高校、大学と連続して借りた場合、希望者については大学卒業後、まず高校分から返還していただき、その返還終了後、引き続き大学分の返還をしていただくことを考えたい。この返還期間の延長については、来年度の返還開始分からの実施に向け準備をしている。

専門学校への奨学金の対象を拡大することについては、今後、条例改正を議会に諮り、来年度の募集分から、学校教育法第124条に定める専修学校のうち、専門課程、いわゆる専門学校についても貸付対象とする方向で、準備を進める。

奨学金の充実について、いわゆる給付型の奨学金については新たに創設すると、別途大きな財政負担を伴うこととなり、市単独で給付型奨学金制度を実施することは困難な状況だが、現在、国において給付型奨学金について検討がなされつつあり今後の国やの動向を見守っていきたい」とのことでした。

## ・先行きの見える発達障害の情報提供について

Q.本市では、発達障害に関するパンフレットやガイドブックなどが複数ありますが、分野ごとに冊子が分かれています。一般の方にはどのようなサービスがあるのかわかりにくくなっています。幼児から発達段階に応じた必要な情報が一元化されれば、もちろん発達の違いはあるものの先の見通しが立ち、早い段階から情報を得て様々な機会を活用することで、子どもの発達が変わってくる場合もあるのではないか。発達障害の生涯にかかる冊子を作成している自治体もあるが本市でも、まずは最新情報を常に更新できる電子版を作成し、内容が充実した後に冊子を作るなどの取組みをしてはどうか?と尋ねました。

A.保健福祉局長は「まずは市のホームページの枠組みの中で、ライフステージに応じた多様な情報をひとつに集約した、発達障害に関する「リンク集」を作成し、発達段階に応じて体系的に最新情報を提供する仕組みを構築したい。また、当事者や家族の悩みに寄り添う支援を進めるためには、公的なサービスとあわせて、同じ悩みを抱える当事者同士の繋がりが重要であることから、今後はSNS(ソーシャルネットワーク)を活用して、当事者家族の活動を広く紹介し、学び合いや交流の機会を広げていきたいと考える。まずはホームページやSNSを運用し、保護者の意見をもとに、その内容を充実させながら検討を進める」とのことでした。

他にも紙面の都合で書けませんが

## ・G7北九州エネルギー大臣会合の成果と今後について

## ・特区を活用した介護ロボットの導入促進について

## ・子育て子育ち支援について

子育て子育ち基金の創設について

夏休みに熊本の被災地の子どもたちを北九州市で受け入れることについて(受け入れが決まりました。)

## ・女性の活躍・キャリア支援について

なども質問しました。インターネットで市議会の質問の様子を見ることができますのでぜひご覧下さい。

